

持続可能な高度急性期医療体制への構造転換：医療の質・安全・知の循環を加速する次世代型大学病院の構築

概要

- 令和8年開棟の「救急災害医療センター」を改革のエンジンとし、**救急医療を軸とした高度急性期医療の提供体制を抜本的に転換する**多面的なプロジェクトを展開する。最新の医療DXと高度専門人材の配置により、**臨床・教育・研究の循環を加速させる組織再構築**を目的とする。
- 臨床面では、AI読影、デジタルクローン、容態把握ダッシュボード等の導入により**医師や看護師の業務負担を軽減し、診療の効率化と患者安全の促進を両立**する。
- 教育面では、診療看護師（NP）の養成と専門指導体制の強化により、**救急・災害に対応できる多職種人材を育成し、地域医療へ継続的に供給**する。
- 研究面では、膨大なデータの収集・解析体制と研究サポート体制を整備することで、**組織動態の可視化とエビデンスに基づく病院運営**を実践する。これにより**持続的な構造転換を可能**にすることで、**次世代型大学病院モデルの確立**を目指す。

背景（Why）

【背景・課題】

- 救急需要の急増（1万件/年）
- 人的資源・ハード面の制約
- 医師の働き方改革
- 赤字体質の病院経営
- 医療高度化
→医療安全リスクの顕在化
- 大規模災害リスク
- 地域・行政の要請（医師派遣）

課題への対応（地域の期待）

少ない人的資源 → DXの活用 → 高稼働率での運営へ（構造転換が必要）

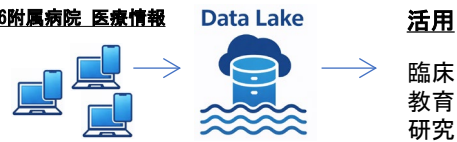
【本学の側面・立ち位置】

●名古屋市内6附属病院体制

高度急性期～回復期（包括期）・慢性期



●共通電子カルテ・大規模データレイク構想

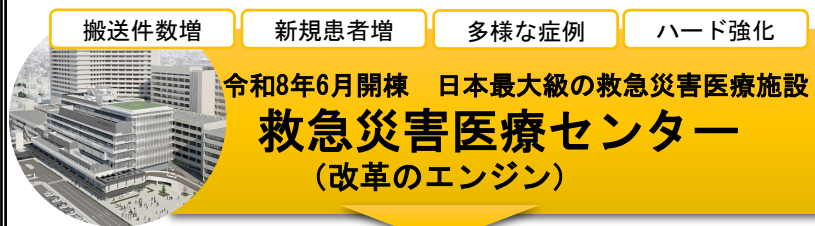


●地域医療のハブ

- 愛知県・名古屋市及び4大学（病院）との連携
- 4大学病院を核とした、県全体の医療提供体制の検討

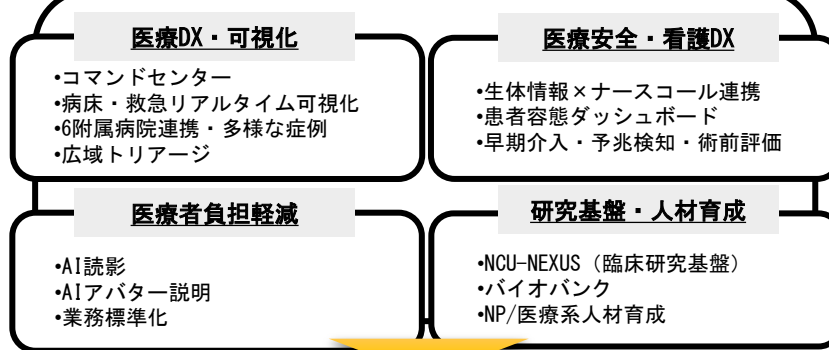
協議の場（プラットフォーム）を構築

事業コンセプト（Core Idea）



臨床/教育/研究の循環を加速させる基盤整備（構造転換）

実現のための取り組み



DX/デジタル技術 × 専門人材の力の融合
持続可能な高度急性期医療モデルを構築

実行体制

病院長のマネジメント

- 病院執行部11名が有機的に連携・実行（院長代行・副院長・病院長補佐）
- 定例会議→病院部会・研究科教授会（組織横断的な体制）
- 大学病院改革プラン・経営計画等への反映



病院の経営基盤へ実装

着実な実行・自己点検体制を構築（PDCA）

成果目標・評価指標（KPI）

救急医療をベースとして地域医療機関との信頼関係を構築

【KPI①】救急搬送件数

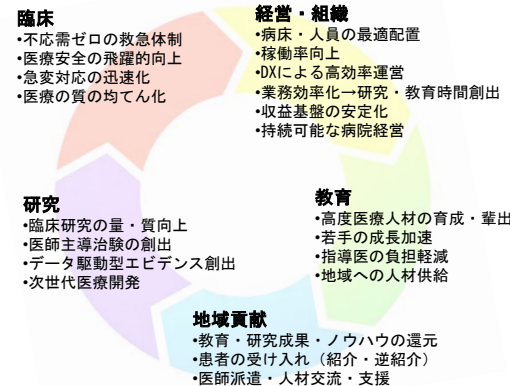
令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
7,000	9,000	10,000	11,000	12,000

【KPI②】連携・登録医療機関数

令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
2,630	2,730	2,830	2,930	3,030

本事業による成果（Outcome）

【臨床/教育/研究の好循環を構築】



患者・医療従事者・地域社会に価値を還元（三方よし）



創出した循環を、病院経営・人材育成・研究基盤に組み込み、地域医療へ恒久的に還元